

第1節 公害苦情の件数

1 公害苦情の件数

平成23年度の公害に関する苦情件数は175件で、前年度よりも56件減少しています（表12-1、図12-1）。

表12-1 年度別公害苦情の件数

年度	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地下水	その他	合計
13	30	72	51	18	45	0	1	2	219
14	22	66	46	8	62	0	1	1	206
15	38	42	63	6	61	0	0	6	216
16	31	35	42	12	76	1	0	5	202
17	32	53	79	17	78	0	0	7	266
18	26	46	49	20	98	0	0	5	244
19	26	64	60	7	80	0	3	6	246
20	21	51	70	6	88	0	1	3	240
21	13	44	69	8	73	0	1	2	210
22	18	49	85	22	51	0	1	5	231
23	8	31	72	10	52	0	1	1	175

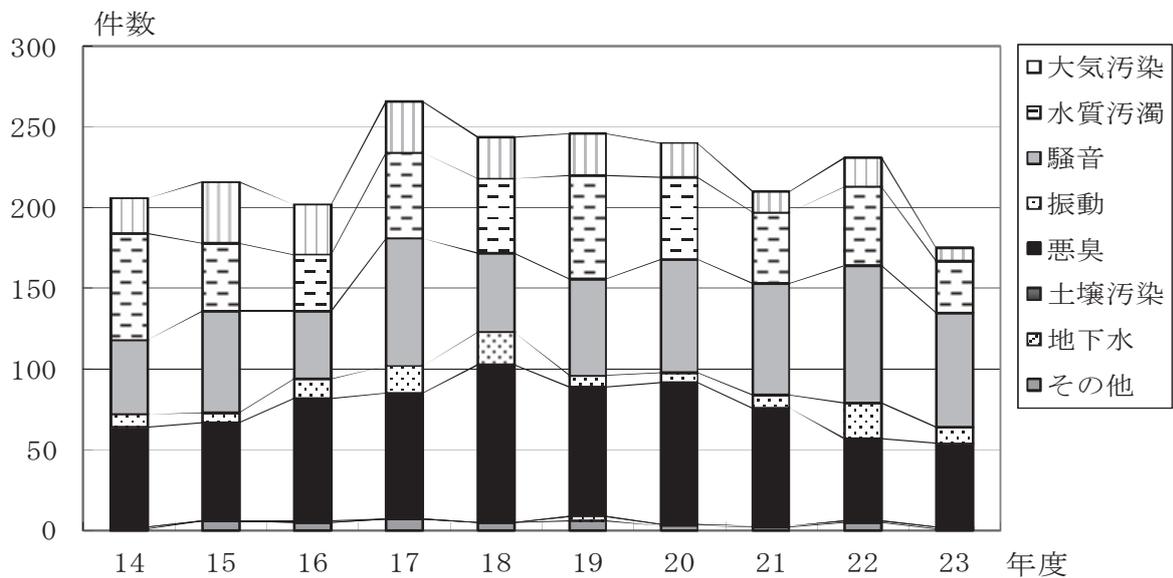


図12-1 年度別公害苦情件数の推移

2 種類別の苦情件数

苦情件数を種類別にみると、騒音の苦情が最も多く、以下悪臭、水質汚濁、振動、大気汚染の順となっています（図12-2）。

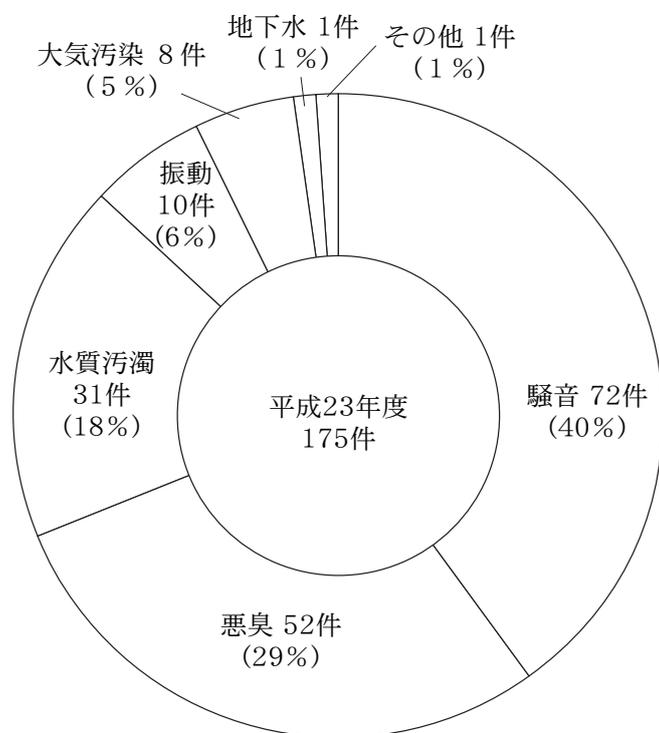


図12-2 種類別苦情件数

3 月別の苦情件数

苦情件数を月別にみると4月が最も高くなっています。全体的にみると、冬場に減少する傾向がみられました（図12-3）。

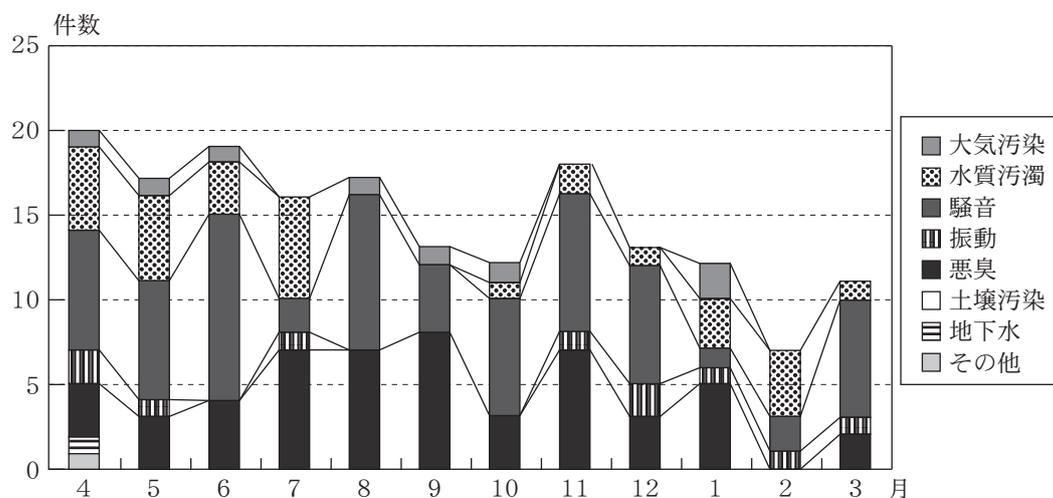


図12-3 月別の苦情件数

4 業種別の苦情件数

苦情発生源を業種別にみると、苦情件数が最も多かったのは総合工事業（45件）で、以下サービス業（37件）、家庭生活（14件）、製造事業所（13件）となっています。

表11-2 発生源の業種別の苦情件数（平成23年度）

業種	大気	水質	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計
耕種農業			1		2			3
畜産養蚕農業		1			3			4
農業サービス業								
林業								
漁業								
金属工業								
石炭原油鉱業								
非金属工業								
総合工事業	2	2	33	8				45
その他工事業			1					1
製造事業所	食料品製造業	1	3		6			10
	繊維工業							
	木材製造業							
	パルプ製造業							
	出版関連産業					1		1
	化学工業							
	石油製造業							
	プラスチック製造業							
	ゴム製造業							
	窯業等製造業					1		1
鉄鋼非鉄金属								
機械器具製造								
その他製造業					1			1
(小計)	1	3			9			13
電気ガス等								
水道業								
鉄道業			2	1			1	4
旅客輸送業			1					1
貨物輸送業			1					1
航空運輸業			1					1
その他運輸業		1						1
サービス業	再生資源卸売							
	卸売・小売業			8		1		9
	飲食業			1		4		5
	飲食店のカラオケ			1				1
	洗濯理容業等	3						3
	駐車業							
	生活関連サービス							
	旅館等							
	娯楽業							
	娯楽業のカラオケ			1				1
	ゴルフ場業等							
	自動車整備業			1		1		2
	機械修理業							
	専門サービス業		2			1		3
廃棄物処理業	1	1	1		2		5	
医療業等			1		1		2	
社会保険福祉								
教育業			2				2	
その他サービス業			2		2		4	
(小計)	4	3	18		12			37
公務			1	1				2
家庭生活		1	4		8	1		14
家庭生活ペット					1			1
事務所			2		1			3
道路					4			4
空地								
公園								
神社寺院等			1					1
その他	1	9	4		6			20
不明		11	2		6			19
合計	8	31	72	10	52	1	1	175

5 用途区域別の苦情件数

苦情の発生源を用途地域別にみると、苦情件数が最も多かったのは住居区域の65件（37.1%）で、次いで商業地域の39件（22.3%）、調整区域の26件（14.9%）となっています。

表12-3 用途地域別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率%
住居区域	3	9	34	5	13	1		65	37.1
近隣商業		2	9	2	1			14	8.0
商業		2	20		17			39	22.3
準工業	1				3		1	5	2.8
工業	1				2			3	1.7
工業専用					4			4	2.3
調整区域	3	10	3	3	7			26	14.9
その他		4	5		3			12	6.9
特定できず		4	1		2			7	4.0
合 計	8	31	72	10	52	1	1	175	100.0

6 被害の種類別の苦情件数

苦情原因を被害の種類別にみると、感覚・心理的が最も多く苦情全体の約7割を占めています。

表12-4 被害の種類別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率%
健康	3	1	14	4	10			32	18.3
財産				2				2	1.2
動物・植物		4						4	2.2
感覚・心理的	4	18	57	4	41	1	1	126	72.0
その他	1	8	1		1			11	6.3
合 計	8	31	72	10	52	1	1	175	100.0

第2節 公害苦情の概況

1 大気汚染

苦情件数は8件で前年度より10件減少しました。

ばい煙に関するものは5件で、発生源の内訳は野焼きが1件、焼却炉が1件、ボイラー等が3件となっています。

粉じんに関するものは3件で、発生源としては工事現場が2件と工場等が1件となっています。

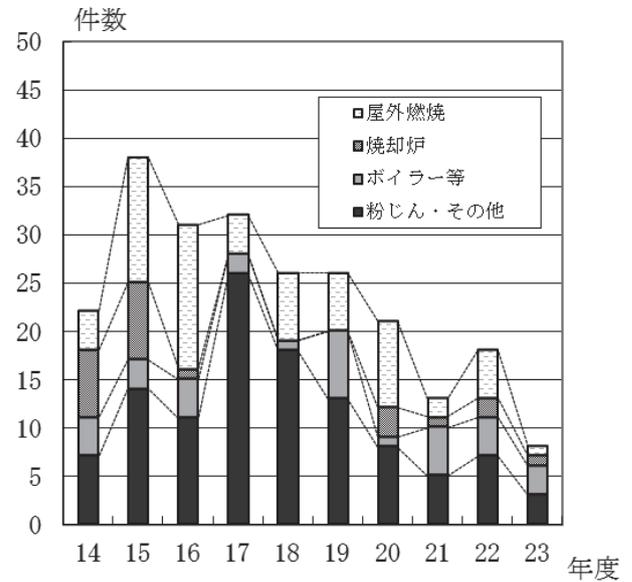


図12-4 大気汚染苦情内訳

2 水質汚濁

苦情件数は31件で前年度より18件減少しました。

種類としては、汚水23件、油流出4件、へい死魚4件となっています。

河川汚濁事故対策としては、発生源に対する汚水処理の適正指導、汚濁物質の取扱い事業所に対する文書指導、広報誌による意識啓発等を行っています。

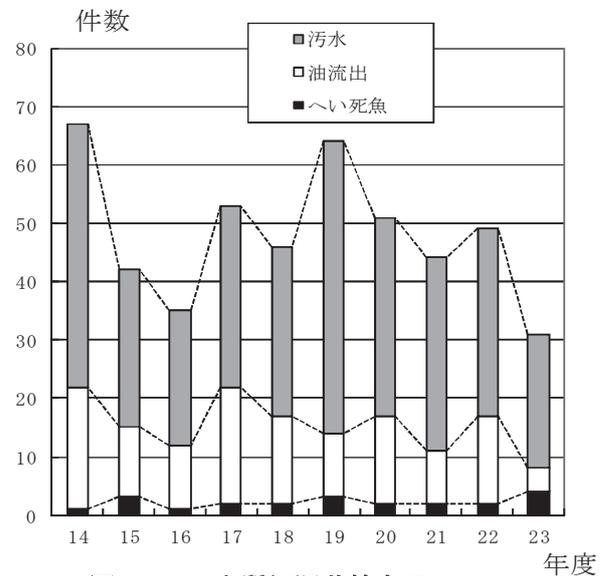


図12-5 水質汚濁苦情内訳

3 騒音

苦情件数は72件で前年度より13件減少しました。

発生源の内訳は、工場・事業場等16件、建設作業37件、営業騒音2件、拡声機放送5件、その他自動車や家庭生活からが12件となっています。

聞く人の身体や心理の状態、聞く時間や周囲の状況によって、うるさく感じる度合いが異なり、また、個人の感情面にも左右される要素があります。

さらに、発生源と苦情申立者が隣接しているにもかかわらず、当事者間での話し合いが持たれる前に、苦情として市に申し立てられることが多く、隣人同志のコミュニケーション不足も都市・生活型公害が増加する大きな要因となっています。

現代の都市形態の中で、快適な暮らしを維持していくためには、自分自身の生活だけでなく、他人の生活への配慮が必要です。

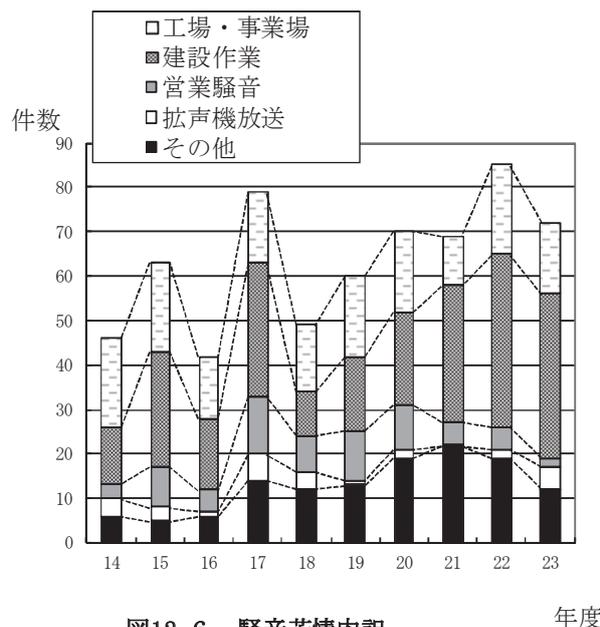


図12-6 騒音苦情内訳

年度

4 振動

苦情件数は10件で前年度より12件減少しました。

発生源の内訳は、工場・事業場0件、建設作業8件、道路交通1件、その他(鉄道)1件となっています。

大型車による道路交通振動や建設現場や資材置場でのバックホウ・ダンプの移動が、振動発生源となっている事例が多くみられました。

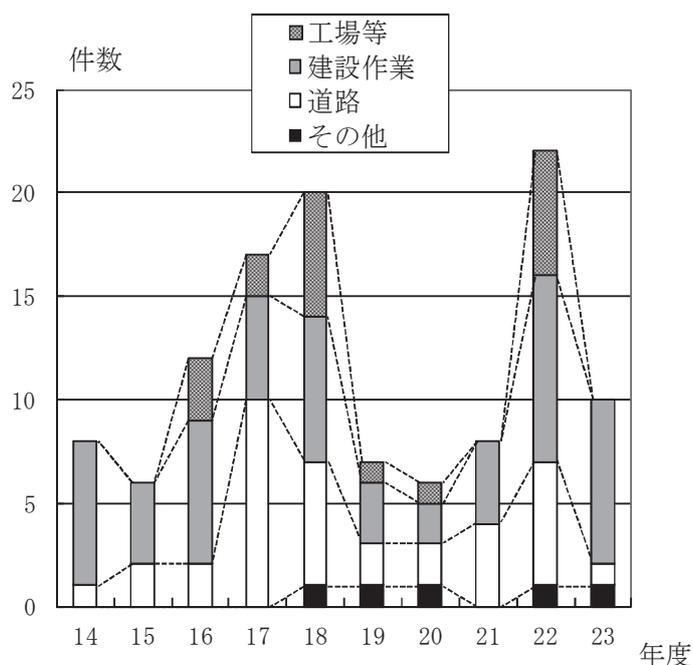


図12-7 振動苦情内訳

年度

5 悪臭

苦情件数は52件で前年度より1件増加しました。主な苦情発生源は家庭生活9件、工場・事業場21件、畜産・農業5件、塗料のシンナー臭1件、側溝4件、その他や発生源不明が12件となっています。

畜産農業系の苦情については、都市化による住居と畜産農家との混在化、住民の快適環境への要求の高まり等が原因と考えられます。

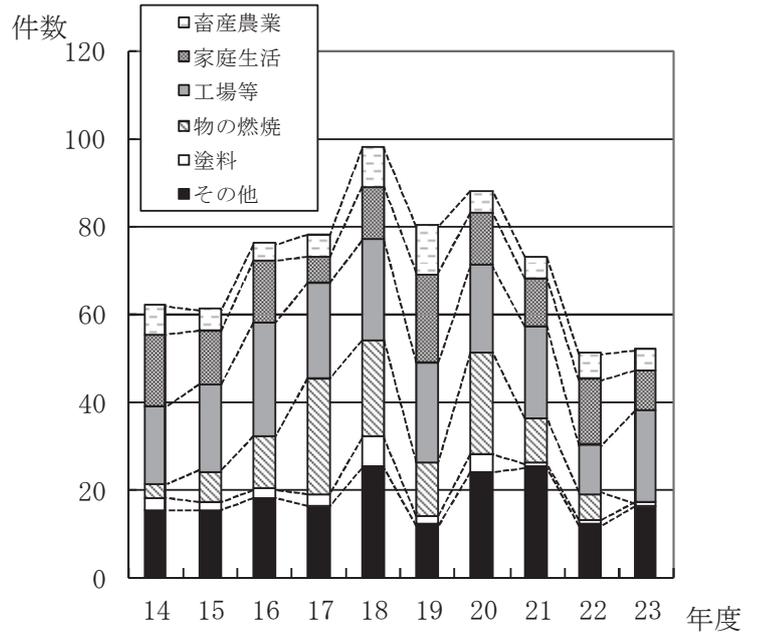


図12-8 悪臭苦情内訳